

図書館だより



令和5年1月号
泉が丘小学校図書館

あたらし
新しい年のはじまりです。

きもちもあらすこながものがたり
気持ちも新たに、少し長い物語や、いつもはあまり手に取らない分類の本にも
挑戦してみましょう。読書の幅が広がりますよ。



ふゆやす まえ か ほん へんきやく 冬休み前に借りた本の返却について

ふゆやす まえ か ほん へんきやく
冬休み前に借りた本を返却しましょう。

いえ かえ わす ほん たし
家に返し忘れてる本がないか確かめましょう。

ほん かえ ひと がっこうとしょかん し だ
本を返していない人には、学校図書館からお知らせを出します。



うさぎがでてくるほん



ことし えと
今年の干支は「うさぎ」ですね。

がっこうとしょかん ほん なか どうじょう ほん しょうかい
学校図書館にある本の中から「うさぎ」が登場する本を紹介します。



『うさぎのみみはなぜながい』

きたがわたみ し ぶん え
北川民次/文・絵
ふくいんかんしやてん
(福音館書店)



『うさぎがいっぱい』

ペギー・パリシュ/ぶん
だいにほんとしょ
(大日本図書)

あるとき、やまのうさぎは、かみさま
き、体を大きくして欲しいとお願いしました。
かみさま ねが じょうけん
神様はうさぎに、願いをかなえるための条件を
だ 出しました。メキシコの昔話です。

ある日、モリーお婆さんの家に、一匹の大きなうさぎが
やってきました。モリーお婆さんは、うさぎに食べ物を与
えたと家へ帰るようにいいましたが、うさぎが帰ろうとし
なかったで、その晩は寝床をこしらえて、家にとまらせ
てあげることにしました。すると次の日の朝、驚いたこ
とに、うさぎのあかちゃんが生まれていました。



『シートン動物記』

ワタオウサギのラグ』

アーネスト・T・シートン/ぶん・絵
(童心社)

シートン動物記シリーズから、作者のシートンが
「うさぎのことばをすべて人間のことに訳してお
つ伝えします。」と書いた1冊です。

ワタオウサギの子うさぎラグは、母さんうさぎの
モリーと、カナダのトロント近くのオリファント沼
地にすんでいます。ラグはモリーから、森で生きるた
めに必要なさまざまな教えを受け、技や知恵を身に
つけていきます。

ほかにも

『いなばのしろうさぎ』いもとようこ(金の星社)

『うさぎのモコ』神沢利子(新日本出版社)

『けんた・うさぎ』中川李枝子(のら書房)

『ありがとうをいいたくて』森山京(旺文社)

『ウサギが丘のきびしい冬』ロバート・ローソン(あすなろ書房)

『ピロードのうさぎ』マージェリ・W・ピアンコ(ブロンズ新社)

『しんせつなともだち』ファン イーチュン(福音館書店)

『うさぎをつくろう』レオ・レオニ(好学社)などがあります。



あたらしいほん

児童のみなさんに人気がある本や、寄贈本などが入りました。(ほんの一部だけ紹介します。)
ぜひ学校図書館で本を借りて読んでみてください。

『がっこうのおばけずかん げたげたばこ』 齊藤 洋 (講談社)
『おしりたんてい プブックきやまのしろいかいぶつ』 トロル (ポプラ社)
『奇譚ルーム』 はやみねかおる (朝日新聞出版)
『かいけつゾロリ にんじゃおばけあらわる!』 原ゆたか (ポプラ社)
『かいけつゾロリ きょうりゅうママをすくえ!』 原ゆたか (ポプラ社)
『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂18』 廣嶋玲子 (ポプラ社)
『銭天堂番外編 あやし、おそろし、天獄園』 廣嶋玲子 (ポプラ社)
『くちぶえ番長』 重松清 (新潮社) など



図書委員会のテレビ放送で紹介した、校長先生おすすめの本文庫版です。



今年度から学校図書館に入り、じわじわと人気になりつつある「パンどろぼう」シリーズ。新刊では、パンどろぼうの昔がえがかれています。パンどろぼうになったわけとは。

『パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち』 柴田ケイコ (KADOKAWA)



とある国の王様は本が大好きでしたが、年老いて目が悪くなったため、自分で本を読むことができなくなりました。そこで王様は、二人の男をお城に呼び出し、「世界中を回って本の話を集めて、教えて欲しい。」と頼みました。

作家、お笑い芸人の又吉直樹さんと、人気絵本作家ヨシタケシンスケさんが語る「その本の話」とは。どちらかというと高学年向け。

『その本は』 又吉直樹 ヨシタケシンスケ

泉が丘地域学校園の連携として、泉が丘中学校で昨年度人気があった本が3冊入りました。
小学校でも人気がある「絶滅いきもの」に関する本1冊と、短時間でも読みやすい読み物の本2冊です。

『意味が分かつと鳥肌が立つ話』は、『5分後に意外な結末』のライバルシリーズとして出版されている「5分後の隣のシリーズ」の1冊です。書名の通り、読んだ後に意味が分かつと怖さを感じる短いお話が入っています。どの本も読みやすい本ですので、小学校中学年ぐらいから読むことができます。

『やりすぎ絶滅いきもの図鑑』 今泉忠明/監修 (宝島社)

『短編小説で読むいきもの図鑑54種の物語』 氏田雄介/編著 (PHP研究所)

『意味が分かつと鳥肌が立つ話』 蔵間サキ/編著 (学研プラス)



おにぎりの日 11月17日(木)



「おにぎりの日」に合わせて学校図書館に、おにぎりや、お米に関する本を集めた「おにぎりの本」コーナーを設置しました。おにぎりが出て来る絵本や、おにぎりの作り方の本は特に人気があり、ほとんどの本がすぐに貸出しになりました。

給食委員のすすめ本として、11月14日(月)のお昼の放送で紹介があった『おにぎりに入りたいやつよっといで』岡田よしだか(佼成出版社)は、学校図書館にある本です。楽しい絵本なので、ぜひ借りて読んでみてください。

ボランティア読み聞かせ

11月11日(金)、12月9日(金)

朝の読書の時間に、ボランティアの方々へ読み聞かせを行っていただきました。11月は「食べ物」をテーマにした読み聞かせでした。

1月、2月にも読み聞かせを予定しています。

